

高忠軍陣圖書考

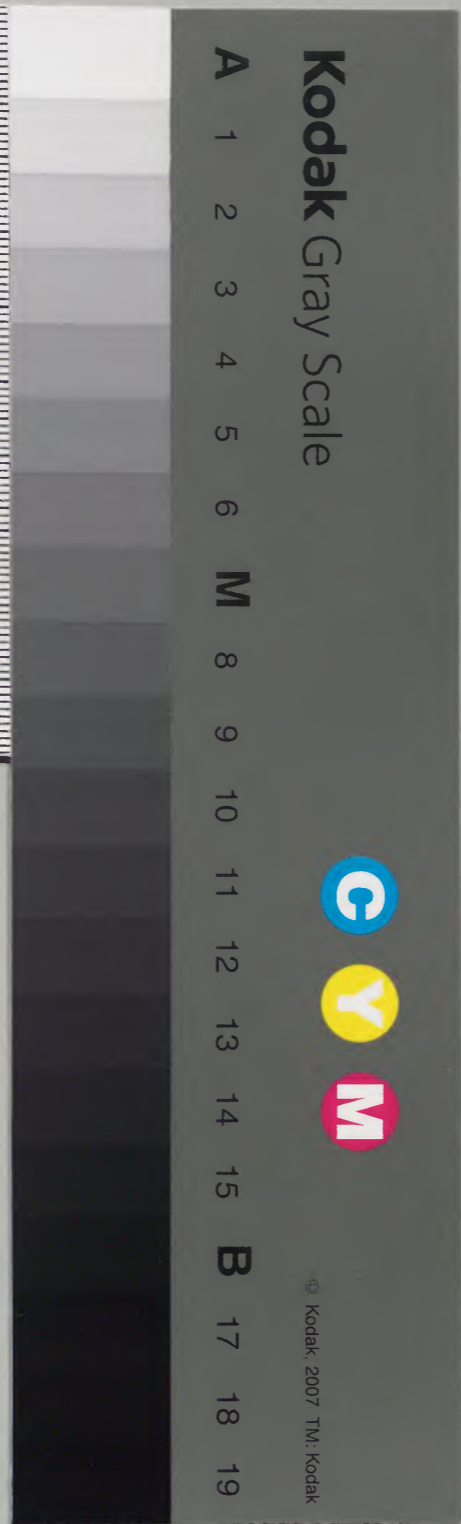
安齋叢書

十六

和書門	
二五〇九一號	類
二函	架
二冊	冊

內閣文庫	
二五〇九一號	和書類
二函	架
二冊	冊

內閣文庫	
番號	和 25091
冊數	28 (16)
函號	153 279



所系圖

出陣の因説た方 同丁助事

軍陣のしくりす物 次方事

軍陣のしくりす物 高野の馬は結をくわせし事

高野軍陣のしくりす物

この仙丈の事

軍陣のしくりす物

根の事 同帳本の事 同帳本の事

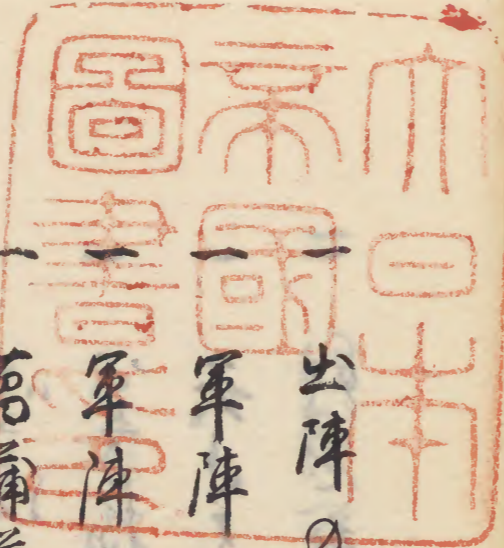
同帳本の事

同帳本の事

同帳本の事

同帳本の事





出陣の時祝次方 同可取事

軍陣のしるし可取次方事

軍陣のしるし高給の馬は鞍をくかへし事

高給軍前係後給の事

とひ証矢の事

軍陣の教の事

旗の事 同扱ふ事の事 同扱袋の事

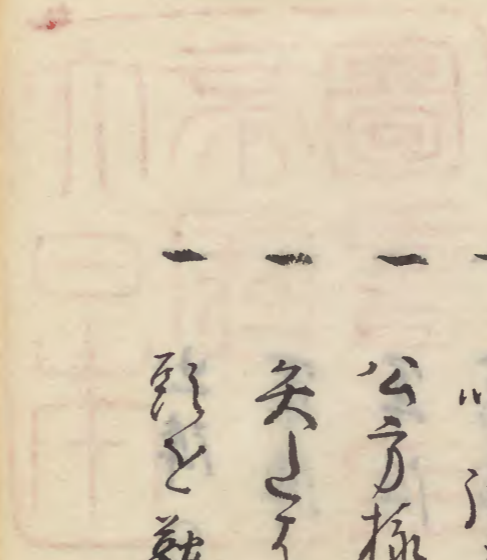
日幅の手つき次方の事

日幅のらみおらりの事

いあしとく事

弦の事





- 一 弦をさす事
- 一 らのきよおの事
- 一 矢る所の事
- 一 扇の事
- 一 具きの毛の事
- 一 虎引目下対の事
- 一 夜引目下対の事
- 一 鳴法に事
- 一 公方極の首達に事
- 一 矢とさるのの事
- 一 糸と鞍のどつれふけの事

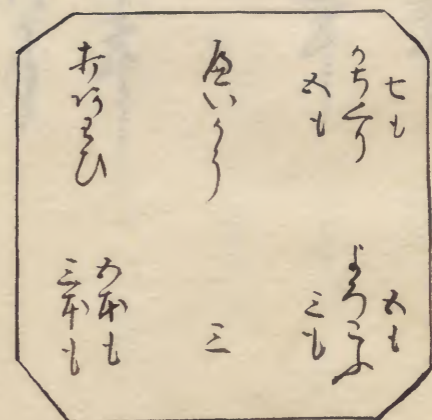


一 日致不致而目事

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '日致不致而目事']

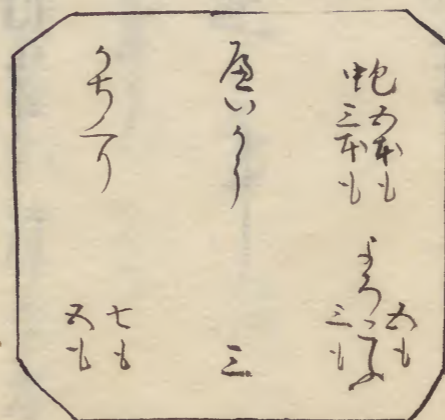
出陣并歸陣時祝有以方敵以下事

出陣時



前

歸陣時



前

一 青とハかんあけの上は免がくまおしきふとあ
 かり 危い〜ハか〜ハ折あまはえぬなり
 そ井之程をハ折あまはえぬ〜
 方より度さ〜方〜かくひ〜酒とのむ〜
 其次二献めふかち〜酒を
 のむ〜き〜
 のむ〜し〜切の〜
 のむ〜
 うち〜

くんとおと祝ふは志中さんの九番まで
向ふ祝ふ象のつらやのふよりてむし
かきくハ東くも向ふきうりの東もハ陽の
方なりとぞ謂ふ

一 丁酉の事一人して是くし初献を
そひくしひとと度入く初二献めハそひと
一 度入くたくまきりくかきく入そひと
と二度入く三献めハそひとそひとと度
入くはと九度入くをそ人ふめませぬなり
いまひくやうく青をとくけしてあけ
初めりうをそとととくつとそひと

くまの祝ふそわかりをそふとくし終つて
うらましきなりそひと入かきけと卒度
入く是ハ初めそひの尾のむなりとそひと入
酒は四く永く入く是も馬の尾のむ
法陽の儀あり

一 軍しひふりては兵具をそひのゆりて
る時を東も下終なり西もそあては陰の
く成謂はけあては軍ふくいのそと人ふ
のませぬ事なり只我れ初祝ふのそと
後ハ青とあてはつふく何して人の見え
ぬ中ハ山をりてととハたうぬなり

をハるゝくあつてハをまじれく但時と
してなくハ何ともしむるなりまぶみきこれの
時ハ二チあるハ二ツツカさる秘くなくくを申
のよよアをく二ツの胸ハ二ツあつて中
よよアをくかちくハ蛇例式のまくなせ
ホハ出陣の時ハ細き尾の方をくひく
の石ハ成つてきなり二度きかいらの方をく
と付そめく尾の細き方を度き方くく
まく廣く成ゆめけ祝として出るとも
あつりあつてまよかち事つハ祝を成
に危し軍といとハ具をきときてもきさつ付

又旗小立付も祝く

一 帰陣して祝の内ハ初旗小かちくをくひく
酒とのむまり二旗目小蛇のむきき方の
さき成ちと切くおぬ小きく切めか
る我さき尾の方くく酒とのむく二旗目
よハこのあの方のそと切めく中とこひて
酒とのむつきなり蛇のくハハ出陣と
出陣とかちく
一 けしとくつとハ出陣一攻陣とを後かちく
蛇ハ出付いたくハハ毎々立布留ましとく
一 あまひあねのけハこふみきれくちくセ

刀と戦くうて右の是と云い一内へ入
 刀と人よとせし一山陣内陣の時ハ車よせ
 の妻戸へ了出入くうらるちあそんと中門の
 ちまひ小妻戸一ツありる妻戸二ツと出入
 するく
 一 小具を出さの時も征矢ありてきとひり一ハ
 うらゆりしる今人の者ふうら不ける
 ことく矢とあひうらなり但今を正とあり
 小とくぬの時ハあまし一
 矢成ありてハ右刀とさそそ後ふありて
 一 軍陣へおしあふらと了持るは信と云い成て

丸の石小をうつさけく下持まておきの時ハ
 弦とささくあてら杖とつきそおとく之
 り杖の突ねた少くも右よそとけく一
 又人小まらしめてお成云時ハそ終る少く
 り杖と突く弦とありてあて持又長く
 お成云時ハうをうつさつてくしる時めさしとく
 りと了持らめうらりてす人小むく事ある
 ましきなりらと人小あそぬ中へ了持く
 馬上よてら成お中めりハお成之敵討時
 のとく了持但弦と内へあておるしとらり
 是とくや合戦山も及時の候へ

一 大将小ねしえははらの弦を内へ着て外
 竹をとりへ成くうとあせく果りて可中
 り成持く何よひもめたののまてちり
 かけを弦をとりなして杖て可あこ
 征矢あひくもき程少てり成人も持せ
 人よせうけて空をりまましきこ自然津
 やの内少てもおたなう可成之りあひ
 もりくはそをふまき一空さ年への時言
 糸もく人小持せもさくきく我在し家
 そを少てもり色りふよはは却く空事
 ありましきこ

一 出さぬ小弦折とさるくあの方少くも素の
 方(山)でも云きて一ツ折屋一人おとよ
 美なり一折くちて弦ふも成かろなり
 一折よ折ぬらぬこ

一 馬のいそあり殿又ハ川おくのぬ心前
 いむふ事音こもや沈よ思成うけていこふ
 事ハあなりそ胸まら成振ふんそふみく
 上帯とほ倍ひ五一後帯とほ志免あん
 かり

一 鼻をひ馬のあつひさ事一后馬しつこも
 あなり上帯とほ志免あ成一後帯一

とも志めまた魚

一 軍陣へ出る時三ツ志をよとしめ奉りしを

才一象と志とま妻子と志を奉り才二
合我場も志を令り志を奉り才三折晴

く志を奉り志を奉り行要の志を奉り

一 軍陣へ立内ハ志智の馬ハ靴を志く志を

志を志く志を志く志を志く志を志く

麻の皮を志く志を志く軍陣小志を志

本志を志く志を志く麻皮本志女麻の皮

略志を志く志を志く白志を志く志を

一 靴の前端の方へ白志を志く志を志く

わけある志を志く又軍陣の時ハ例式白志

志へ志を志く志を志く志を志く志を

志へ志を志く志を志く志を志く志を

志の志を志く志を志く志を志く志を

志へ志を志く志を志く志を志く志を

志へ志を志く志を志く志を志く志を

志へ志を志く志を志く志を志く志を

志の志を志く志を志く志を志く志を

志へ志を志く志を志く志を志く志を

志へ志を

一 志へ志を志く志を志く志を志く志を

もん小すしりたる代りかこ是と前様と
しあかぬ皮の厚りとさだめはくつこのより
たへぬ方と前様よりさだめ又しそ中
かこいふ草薙斗あるとこかこ是と
後をとりのぬ皮の厚りさすしきくつ
よりあくる方と後とふくさすたり
是もささるく人へなぬはし

一 お井 征矢の事十六矢寸矢寸矢是と
用りて但考ハこつ可六もあつて小さ
つては征矢の指中上帯の中事
家々小依形

一 為志家代にお付の上帯の川根初
秘説不及注意矢ハ十六矢も
亦あまよてもさ身の倍つて一
あつてゆかぬさ免のかわり
一 一〇さんかう人の物さるさくか
とうちちうくさるるかあゆ
らの中別紙に注を白山堂系教
かう同くあつて中一
一 十六矢ハ九曜の星と七星と
いと十六

一 征矢とあひくハ必殺とこしそ
殺

の中のもの二尺八寸くらゐ柳を下用くらゐ
柳とハ待弦としつゝそれよりて神文
皇居より退治の御待弦と教（一）
振（一）ころ（一）とて法神さうれ（一）を
より今ふ用事ある事之待弦とハ秘事
うふよりく人よりたぐぬ柳より来り
二尺八寸ハサハ着く何（一）さすふとつ
しつゝさすの内からこれとのありてあな
とあけ結と成して教むとひみとて
の入程ふむとつ（一）儀の草ハ黒草く二尺
八寸ハ白草とて（一）

一 具の長さある（一）と具の長さ（一）や（一）と
く（一）

一 このの振やの事（一）ち（一）二尺二寸布なり
たうむりの定白き布このとぬひ合く
を（一）き（一）なり（一）布（一）の（一）た（一）は（一）一（一）尺（一）二（一）寸（一）布（一）な（一）り
幅（一）二（一）分（一）一（一）寸（一）を（一）と（一）ぬ（一）す（一）は（一）き（一）と（一）幅（一）の
是（一）と（一）さ（一）ぬ（一）い（一）ら（一）し（一）小（一）西（一）小（一）黒（一）草（一）よ（一）て（一）き
く（一）と（一）ち（一）と（一）付（一）ら（一）り（一）大（一）小（一）ふ（一）を（一）大（一）ら（一）ら（一）し（一）は（一）
ら（一）め（一）く（一）美（一）家（一）さ（一）ら（一）し（一）と（一）合（一）裁（一）め（一）と（一）き
前九年（一）及（一）二年（一）十二年（一）三月（一）乙（一）未（一）日（一）振
を（一）や（一）つ（一）れ（一）ら（一）し（一）ら（一）り（一）及（一）二年（一）又（一）ち

さきへさけくもんと了す是ももんのよ
小件祓とさきんち中へけけハ極さるの
長さ一丈二人よとさうく春日時をえくひ
東南陽の方へ向くは極さく

一 極とさきはけけハ男とさうくつらく建時ハ柳
のかき板ふ極の布とさきくそのよより後
らうとさきとたへはをたふ来くつら
たずとさきへ極くさきく腰刀よそとらと弦
とのらさきひよりさきへ極く建くつら時と
九字の文摩利支天の真多とさき極極一
節へ

一 極のぬひ中へ中へ極とさきくつらふたりを
前へおさきへ極の上へかへぬへ先ッ
一とさきくさきくぬへへけと返してぬへ
ぬへぬへくさきくぬひくよくさきくさ
へへ又以前のよとさきへ又一とさき
二とさきくさきくぬへへ極のりへぬへと極
のさきくさきく陽の方へ向く年の年のお
とさきくさきくぬひもさきく南今星を破
軍星極へ

一 極字の事根らうの竹と下利想の長さ
一とさきくさきくぬへへぬへへぬへへ

てくく切替えしとくくつらりやまの一二の
よ成一ととしして上より一木を重く定と
めくまをへ思草とくけく二よれく
つ不の方こそせ計定下出つるを
たせくまときしてれくく小幡を片く幡付の
備ともいふこつ不の強の草よく一止乃
節の如目ふとくく法として定くく
くくあへう向又さ不のよ急一人二寸斗
思草よそくくむりきりやくあ
一 幡付の法ととをすら元より木の子の中
あちその種もとの麻の利支天のよきをき池く

一 出陣の時幡と出陣の時ハ志あてんの九るら
大お幡若小波之幡持持れく中門の妻
戸とあてて人のらの妻戸とくくして中
門のつま戸とくくを度く下出因幡等
中への妻戸かさき成おふりくぬ中
おく先幡つるのされの方へ下出之法
て中る小下海やうて合戦もあつてく
各方へ向く幡と儀を板お等あて付
時市といふをく

一 幡代等のま一帛たるへきぬくく布
よても浦とうりへくくは色もくく

かすす 悔のちりくくと入中 小指(一)もと
さえもなぐぬひくあめししとくみよて
わひ 銀ふり帯こぼしー又海をよこく
歌津のむちりて下金こぎとハ情話の中
りふ下指こぎ持る中居ハ悔指より
さきここけし
一 志せん 陸中へ家志んくくの似種小を扱
なとも来りハ悔言小むひひけて下指こ
合戦の時山もあけく

一 悔指 悔とさした時ハたのきよくさんなり
るの上よて悔さふ二此時ハ度定のるまの

とく小指の中いしめかこの事ハ半の角
あても作よてもさきなり鞍の前指の
あふて小可指
一 悔言 小指とけく以後 悔指の馬なと
とありるるる 萬川りりく 泣くかすま
幸りりハうち人ハ悔とさせくさくふ
さふしてさきよてさきさくさくはー但
なん志よよてうち人もさありあさる所
あてハカおもんころすく

一 悔指 する時 風強く吹く悔と吹ちきり
つ 危き時ハ 悔の是と 悔言小をさく

指（きりり）法の方（く）の風吹く（き）
ときハ少（す）しの風吹く（き）ふん（き）
（き）す（き）

一 大ねとく（き）と相生と（き）

一 悔指の出ま（き）大ねのお生の（き）
とき（き）一（き）の毛日お生と（き）

一 （き）指ハ悔（き）ぬ付（き）ぬたり

一 矢斗ぬきて（き）と家（き）小（き）

一 入礼（き）合我の時（き）味（き）

一 ときハ依（き）悔（き）斗（き）

一 お（き）入（き）合我の時（き）

一 合我の時（き）家（き）

一 三日悔と（き）た（き）

一 何（き）何（き）

一 三日付（き）

一 二日め（き）

一 右（き）

一 後花園院（き）

寛文二年四月十日

弘治二年六月十二日

一 川のほとり蛇のうらふ似たりとす是を
おそれおぼしめしつまのそすりしはく
るされしり蛇の舌ふ表はしとてとす
るうくおして信をかけられたるなり
今の世までもちけし思ひ地と表はる
しうてらハ思ふと南とさるこも後と
とつうよすの地の色二ふ表はるなり
うくそハ地の形へ浦の音本音ハ地の
くくちの笑ハ赤きとて赤と括へき事
本儀ありをき後さる長善廣徳殿
山門の遺俗の時自の言を殿の供やな

出陣の時志けとりのうと持うりてす
ハすふ志あさしとておろくそとぬ人を
不念ぬさるなり小の原は及持長は名
降元ぬ陣の時見利ありしに藤原の
うらかりそ時ハ言長おしとて切府
大く
一 おく時と云ハう一法のみこ二ふくると云ハ
二 浪のよく
一 けしと云ふと云と云事ハ思ひ人のうハ中
おく公方極のさうとハアアと云とハ
おとととアアと云と 公方極の云とて

ハナマシキ

一 一ハ白子本にぬきはじめとみとこふハ志け

一 一ハの上と赤うらうらうらぬうらうらとえく

一 一してうらうらうらうらうらとぬる事

一 一略義之

一 一市田山笠原友家小浪りてうらのこりう

一 一ヤシ

一 一志きのらの法ハ志法くぬる事ハ志法ハ

一 一方の弦の上とちして右刀のつるを止とく

一 一ちうくくをせとせきけらとえく又一子ハをす

一 一有丈とハ志法といふくそれハ略義なり

夫ハ弦とハ先法く対るりして後をく

ぬる

一 一弦をハえりとの腰は付く刀のこや

一 一引とてをとおるハ弦をの付中ハ付

一 一有大小ハ志のこふらうきなり中のすき

一 一ハカのこやくくりくともハ志ハ付くきく

一 一弦巻をハ昔ハ志ハ志ハ志ハ志ハ志ハ志ハ志

一 一を束つらうらうらうらうらうらうらうら

一 一本とハ志く

一 一らの志ハ志ハ志ハ志ハ志ハ志ハ志ハ志ハ志

一 一折殺ハ志ハ志ハ志ハ志ハ志ハ志ハ志ハ志ハ志

のき板よハ柳と不可陽本成を
一 万の年のさきととらんりかいらひく
らんりかいらひく
そよよりそのま
一 具はさき不可極府のり面ハ地とくれさ
小月とあく地ふたのふとに不可出日の大小
不定きんてくならうらハ地とあゆく
月とあくて出大小不定月ハあらくく
地ハそよあく月の方の地ハ星を不可
星の敷セツ又十二く不しハあらくく星
の大小不定すらくちいさく月のあきふ

て出セツの時ハ府夜つりよ時きん三ツ方
より小に成中り小月天十二の時ハ一方は
六一方は六以上十二く星の至所不定えん
くひくあく一一面ハ星の至の浦ま
秋の輝く骨ハ星の敷ハ十二補しまじ
るのきく一例式の府よりハまする
くく一 度さふきうあめをハちひま
年少てもさき何れもまてこの二色の
内と不可但うハより一かのそよ
かきく小かいらとてあんとお
くく小ををあくしてとありしるあんの

さらばと区一しそぬらぬ中よさらばと一府の長
 さ一人二寸合のうさぎと一し
 一 府の福のふぶとくるととら人の事一謂尊し如
 昔よりわけあきいふことらの謂とハサを存知
 とはゆい
 一 具足の上二府とさた時ハお引ふさば一
 至八日の方を向くるしとさたなり扱ハ丹
 の方を向くぬくさた
 一 府のつらひ中しのみむつハ日の方を向く
 成る骨とさりひしきてさつとハさつと
 つらひ一勝いさしと後ハ皆初終

一 帯日金銭とさる時ハ初ハ月の方を向く
 ぬくさつと一扱さ日の方を向く成て
 つらひ一
 一 祢老の事一布とさし一とさハ白とさ
 たり一廣さ長さあると但さあしとさ
 七とさし
 一 師まうさのみ布とさし一
 一 具足の色のさのみさお系本にこそ謂と
 お系根本のさよりとさハさくお系
 とそ免とさりあたりとさく系ハ人のさとさ

本のソウめまう〜白糸とわとほろ又か
きソウハ陽く

一 黒糸黒草威貴祝のソウこ是もかろんと
ソメ美成小信〜あ〜用〜

一 西きせなうとヤキキ 伊新抄の西具きるふ
てハヤマ〜

一 手せ長の本こけ西きせ長もハ糸なり
け美卯のむおと〜

一 かつ美のふ〜ソウとハ白糸のふ〜
ああ〜

一 めいりん〜竹ハぬりう〜日弦もぬり序〜

一 矢ハ白置ふ鶴の卵と付〜なり〜

白きえり糸〜〜〜
不苦但晴美なり糸のえ〜

〜〜〜
〜〜〜

〜〜〜
〜〜〜

〜〜〜
〜〜〜

〜〜〜
〜〜〜

五箇の糶ハ別本のつたのちうやうと
右ハかゝり抄しえはしつてはし

一 村中の事一産所の名をたるとして是を例
即ち五箇の河を細くわたりうのきうを
してかゝぬきそ河神とあそびて解
但し水の方ハ村ぬき白りのきう
と向ぬき二人小舟のえしと
さしうり成村は一つ村と入
畏て村つたを又と入
まてうり成ぬき一つ村と入
長く二村と入るがありいとあて又一

一 下村の女子をハ二ツのまゝあて村ま
たり矢ハ日たると一射しはふか
入る長く矢五ハ射ぬき一
是ハ年産所を白ぬき
こいぬき下村は是ハ秘説

一 村中ハさし矢よて下村赤上てハ川
らうり産所をうり返らたか
はへしは魚して産所の川目ふ
目射時赤上り返らたか
りまたとくまゝあひの事
一 矢をたかふたし一矢を村のし

とらうとらふ

- 夜月日の事一おの子この時ハ夜月日の教ハ
 えて少あひとまき二射く又少らひとまき
 三下射三三三三ハくよひ女中あつ月
 之交下射く女子の時ハ三三三と以上七よひ
 三夜七はく二射く但男子の時ハよひ
 之教中ハ三三三と射く女子の時よひハ
 二教中ハ三三三と一教三射く是
 ハ略義ニ
- めい希人のより男子の時ハ月日の教のまき
 三三三と以上八くよい教才三夜三三三と

- 三三三と以上八つ三夜を射く女子の時ハよひ三
 二夜く是も夜月日の教のまき三三三と以上
 七つ射くよひあつ三三三と三夜七つ三夜を
 三三三と男女も三夜を射くやまき三三三と
 三三三とよひ三三三と射く三夜三三三と月
 射く三三三と男子の時ハよひハ三夜中ハ三三三
 三三三と八く女子の時ハよひハ三三三と三夜
 三三三と七三夜を射く三三三と三三三と
 三三三と子の湯をあつ三三三と三三三と三三三と
 三三三と三三三と三三三と三三三と三三三と
 三三三と三三三と三三三と三三三と三三三と

小十なるうしつをそめりて男女をかまひハ
かきく之法を祝の時又ハ祈禱の時ハ弦
をかきけしなる也

一 八幡殿義家めい希人よりきりて之をなすハ
右の扱をきりて一交折くがあまひとをきり
又一交折又少あひとをきりて一交折と之を
折りて之始二交ハ弦小のときとて一交
めの時小のときとて一交のときとて一交
交ことと申す之魔家の物部宗近居ると
の時の事

一 魔家化生の去るをきりて折日月むのころの

一 川目ると射りてハ長く立時ハ右のありより
あまきく之を踏く一射りてそのハ例 式中
小立時の足踏のときとて一秘法なり
柳ルは傳りたる也

一 一 概程を小魔家の右ると射時ハ右のときを
あま一足あまを射りて意あまハまきりて
のさくふあまを射りて矢ハとかり矢を射り
なり右の羽の羽山の尾をきりて矢を射り
右のときを射りて魔家のものを射り
あまを射りて矢を射りて矢を射り

一 出陣を射りて矢を射りて矢を射り

人立はたの是とあつて又まゝ居る
人か小出る付もたの是かあゆひ出るたりり
常小産あふ居る時たの是かとよふ
或く居るたの是か端々まゝに後云の
相定く

一 公方極門出一處の西をハ哲判とありて
め沙振拾之る目西甲の録をたはる

一 奥定と人の常へうだく出る所前ま下
詔ハ上ひくうきてゆる所人も奥定とそ
まへへうだくむとそまへへうき

一 矢つらひの草つらひ草あふ草の廣さ

みかへ金のちり石定まふらへ一草の
さきとらんちりらふらふらへ一草の
のり根のさきハ上へ一人二寸まゝと
らうのまをゆると四本記ふらとま
ゆまふまゝてはすの方すらへと
かりち後小見とふひくゆへ一板の草
ゆへと矢くまゝとてまゝとゆへ
えとちとちこ何そと一處の拾矢一はと
草と細くたちりといふまゝよくけてえ
よゆひ下付ゆひやめむまひの行
之りハ成秘説

一 既と鞍のさし付より半大ねの既さハ
たふけりてしりやの既とハありけり
たつとちりていふふと何れの既
とありて不月法師の既とハ口の内より
とり付の既とありてをて不月既と
記より多ハ月とさぬと何れの既の是
一人ニすふ

一 軍陣少く既とを四月時ハ命りぬりて
きて御をさしてまういさる付ハまきいそふ
て右刀といふとありて一ツ掛月すふは
畧義少くを四月時ハ具き命りぬりきて

右刀といふとを四月

一 既と今我捕少くを四月時ハ命りぬりて
きつきりぬりてふふとハ掛ひとさ
魚ツ目之今我の既とを四月時ハ既
とありて命りぬりて右の命りても
とりてけて既の切ふとふりて既ハ
御とさるあてたの命りて切を捕
掛月とたくまうとさ

一 入る既とハ右の命りてたゆひそ
た右の命りてたゆひのゆひとて切
とたゆひを四月

うけなく、この竹の子の月夜、一、月の五言のそ
る月しくけし、そり、うちをたぐ、つらふ小
る、そり、とく、き、お、さ、く、持、つ、あ、一、ま、て
既、と、そ、後、中、小、お、右、の、方、と、卒、な、な、を、け
月、た、く、す、ま、う、く、ま、こ、既、と、き、お、さ、竹、の、あ、ふ
お、り、く、右、の、方、と、ゆ、後、え、う、く、ま、と、く、き、の
上、よ、て、お、し、ら、ら、う、く、あ、い、

一、う、ら、の、ま、の、中、の、中、の、り、昔、ハ、た、の、ゆ、ひ
あ、か、う、く、ゆ、ひ、く、ひ、一、朱、ふ、ふ、か、く、ま、を、
あ、ま、く、ひ、つ、さ、け、て、持、つ、ま、ま、中、の、ま、は、く、
但、そ、れ、ハ、ま、ま、と、ま、ま、と、わ、て、お、つ、さ、け、て、ま、ま、月

る、五、能、く、あ、ふ、ま、く、流、ひ、ら、ち、う、ま、い、

一、夜、川、月、了、射、り、祈、傍、の、竹、の、取、川、月、用、公
の、竹、の、取、川、月、ハ、こ、こ、三、と、是、代、月、一、つ、上
九、之、川、月、と、三、つ、お、く、了、射、例、ホ、乃、と、く
は、く、ま、ら、そ、ひ、ら、と、初、く、是、あ、し、と、ま、ま、
ら、の、ま、あ、ま、と、し、て、ま、ぬ、ま、て、神、と、納、く、
三、つ、射、り、ひ、と、少、ま、く、又、三、つ、了、射、あ、け
三、つ、三、九、射、く、川、月、ハ、大、射、川、月、た、る、ハ、一、
お、し、ま、い、月、の、乃、ま、川、月、よ、て、射、く、
一、む、お、ま、い、の、川、月、の、半、川、月、成、三、お、く、射、く、
あ、ハ、ふ、て、射、日、ハ、東、あ、く、川、月、と、向、た、人、よ、う、ら

屋一西へ向く射も不若病者などの
祈禱小射よち主の居る家の極よ
ふさぬふ不射越月日ハ大射月日たへ
射中ハ之の月日と二とハさへり
一とさう小丸さへりはくさへり
く枯らのさへりとしてかゝぬきて神を
酒へ了射月日の落不ハ屋指すこと
ソウくハ落さうともあ若そ人の極を射
ふさへりハさへりさへりハ射時あの花
のさあさへりハさへりハ射してはさへり
とハさへり了月日はハさへりハ射し
とハさへり了月日はハさへりハ射し

斗小沼りし事之りの秘説

一 ちあす弦打酒の弦打と二吳在神の
弦打とハ常小さるこく弦打と
神の手とさうらさ酒の弦打と云く
想して弦打を何なせよ後ふ志を何
る時のとハ酒の弦打とさへり又さへり弦
打とハ弦打としてさへりさへりしては
さへりさへり

一 用分の時の弦打ハ四二二之先四打て少
うさへりさへり二之打へ四二二以上九之何とも
九ツ打之弦打のさへりハ弦小を執へ

二折があらひとを

一 徳の内の弦打ハ之と一ツ上十度ノ是ハ
之ツ度ノ者ト折テガあひとを多く折レ
愁トシテ弦折ク毎度之の月朔二ハ日と
之くぬ之ニ日とハ日とを多ク一十度日
のとも日とを多ク折レ愁トハ折余是倍
なとの内の幸く十度目の弦打とハ折
弦ナリ

右ハ指ヲ後トシテ太連ト注云ハ此本
今之書字者也

永正八年六月日

小八木若松
忠勝判

弘治二年六月日

此軍陣聞書ハ古書ニテ無相違宣鋪書
也小八木忠勝ハ豊後守高田忠之守子ニテ
候御秘藏可被成候私儀モ所庄仕候

貞春

右多賀寺なる中原高忠軍陣聞書式人
所持シテ多賀寺なる高忠寺にて多賀
寺政の字されしと云ハ之と字ナリ

丁卯寛政四壬子年春三月

源九檀子

